

全医労青年部ニュース

(Cookie News Paper)

全日本国立医療労働組合
2014年5月27日発行
No. 17

青年のイベント各地で開催!

東海北陸地方協

マツホクマツホク

5月16日～17日石川県山代温泉「ゆのくに天祥・ゆのくにの森」にて東海北陸青年集会(ヤングレポリユーション)が開催されました。オープニング企画は、石川県の紹介や石川にまつわるクイズで盛り上がりました。学習企画は、男性が女性に扮して寸劇。会場は笑い包まれました。寸劇のテーマは「超勤申請ができない」「年休取得が出来ない」「休憩・休息が取れない」の3つ。班討論では、寸劇の間違っている箇所や職場の現状、悩みなど話し合い、「実際に現場でも起こっている」「年休と病休の違いがよくわからない」「休むと評価が下がるのか」などの意見や質問が出ました。

夕食交流会では、ゲームで盛り上がり、交流は夜遅くまで続きました。翌日は、「加賀の伝統工

芸の体験ができる施設「ゆのくにの森へ。体験のコースは山中漆器に蒔絵体験・和紙づくり・輪島塗の沈金彫・陶板づくり・九谷焼の絵付け・ガラスのサンドブラステイング体験・加賀友禅のハンカチづくり・加賀金箔があり、各班2つずつ体験しました。普段、なかなか触れることができない加賀の伝統工芸を自ら作成して、楽しみました。感想では、「また人を連れて参加したい」「年休のことが知れてよかった」「いろんな病院の人と交流できて楽しかった」などがありました。



近畿地方協 青年交流会

5月17日近畿地方協事務所及び蓬萊本店にて近畿地方協青年交流会が開催され、32名が参加しました。

他の地方協との交流として、関東信越地方協の中央闘争委員である横浜支部の衛藤さんの奮闘記を紹介しました。初めて参加した労働学校で組合の大切さを感じて、それから積極的に活動に参加し、中央闘争委員になってから多くの人と出会うことの楽しさ、今年の4月の新人拡大をしたことを報告しました。その後、自己紹介を行い、「組合に入ってから組合費の高さが気になっていただけ、去年参加したクリスマス会で組合の歴史を学び、夜間看護



等手当が組合の要求で増額されたことを知って組合の大切さを知った」「2年前の愛知の



ダイナマイトに参加してとても楽しかった。その時同じ班の人とまだつながっている。組合だからこういう事ができるとわかった」と意見を交換し、交流を深めました。午後は、集会の目玉企画である大阪名物の蓬萊の豚まん作り体験。あんを生地に包むのが思いのほか難しく四苦八苦しながらも、真剣に取り組みました。その後、バイキングランチの時はビンゴ大会をして全体で盛り上がり、笑顔になる集会になりました。集会後も有志だけでボウリング大会を行い、支部の垣根がなくなる良い交流でした。

中国地方協

青年職業員の職場で

5月24日～25日 島根県

ふるさと森林公園他にて中国地方協青年集会在開催され、21名が参加しました。

まず、原発について学習を行いました。講師の島根県議会議員から島根県のこの間の取り組みについてや、ニュースでは耳にしないような話などを聞きました。その後場所を移動し、普段入ることができない島根県原子発電所の敷地見学を行いました。見学では、原子力の仕組みについての説明や福島原発事故を受けて島根原発の災害対策、最終処分場についてなど話を聞きました。

ふるさと森林公園へ移動し、夕食交流会では、BBQをしながら原発見学について感想交流を行いました。2次会も行い、職場の話や恋愛話など盛り上がりました。

翌日は、バームクーヘンづくり。初めてお菓子作りをする人もいて、どのくらい混ぜ



たらいいのか戸惑い、四苦八苦しながら楽しみました。生地が出来たら焼きの作業。竹にアルミホイルを巻き、生地を塗り、炭火で焼いた。これが根気のいる作業で、焼いてはまた生地を塗って焼いての繰り返す。この日は、天気にも恵まれ、陽射しが暑いので炭火の熱さと戦いながら行いました。焼いている間、しりとりをしたり、夜での交流の続きを楽しみながら作業しました。

閉会式では、前日に書いた原発の思いを模造紙にまとめたものの発表と各班の

話合った内容を発表しました。原発対して「反対」「共存」「原発に代わる自然エネルギー」などなど。また、「すでに原発がある以上、無くすることはできない。受け入れていく以上、いままさら反対もできない」と現地の切実な思いの訴えもありました。原発は、原発がある場所だけの問題ではなく、これから私たち青年にのしかかる大きな問題であること、避けては通ることができない問題であると感じた集会でした。最後は、ダイナマイト・ゼンイロウでの再会やブロックアクトでの再会を約束しました。



アンケートのご協力お願いします(..)

国公青年意識アンケート2014

本アンケートの目的と活用方法について

このアンケートは、国の職場で働く青年の皆さんが、自覚から感じている仕事や労働組合に対する意識・思いを伝え、今後、労働組合の運動をより活性化させるための討議資料、魅力ある青年活動づくりなどに活用することを目的に実施するものです。

組合加入の有無にかかわらず、みなさんのご協力をお願いします。

基本項目

F1 性別
1. 男 2. 女

F2 年齢
1. 19歳以下 2. 20～24歳 3. 25～29歳 4. 30～34歳 5. 35歳以上

F3 勤務部署（勤務地）
1. 本庁若 2. 管区機関 3. 府県単位機関 4. 地方出入機関
5. 施設等機関 6. 独立行政法人 7. 国立大学機関 8. その他

F4 雇用形態
1. 常勤職員 2. 非常勤職員 3. 民間委託職員以外の非常勤職員
4. 派遣社員 5. 議員・書記 6. その他

医療・介護・福祉 職場ではたらく **青年職員に対するハラスメントについての調査**

いま、職場での「いじめ」「パワハラ」など、いわゆるハラスメントが社会的問題となつています。医療・介護・福祉現場でも例外ではありません。

その原因として、個別の人々手による差別・見当違いに起因する「就業主義」「結果主義」などのストレスから職場の人・人間関係は悪化し、職場における協力、信頼関係、人間関係を築くことが難しくなっていることなどがあげられます。

こうした中に若手職員の健康なども加わり、いじめ（パワハラ）などの行為が増えています。パワハラ行為は、個人への人間性であり、同時に職場の業績悪化をもたらすものです。そして、それは職場のチームワークを破壊し、医療・介護・福祉サービスの提供にも重大な影響をもたらすものです。

いま新しい労働法から、職場におけるいじめ（パワハラ）などの問題に、本調査を通じて、医療・介護・福祉現場から声を上げていきます。調査結果を基に、職場でのいじめ（パワハラ）を防止するための取り組みを推進していきます。

締め切り6月27日

締め切り7月28日

